

関西出身の直木賞作家による対談!

歴史小説の魅力とは

～想いと景色と表現と～

朝井まかて

第150回直木賞受賞
「恋歌」



© Norihisa HARADA

澤田瞳子

第165回直木賞受賞
「星落ちて、なお」



©文藝春秋

令和5年10月9日(月祝)

午後2時開演

開場 午後1時30分予定

八幡市文化センター
小ホール(4階)

入場料金 前売 1,000円
【全自由席】当日 1,200円

チケット発売日
7月15日(土)

チケット取り扱い
八幡市文化センター
(TEL 075-971-2111)
八幡市立生涯学習センター
八幡市立松花堂庭園・美術館
ローソンチケット (Lコード 55182)

主催:公益財団法人やわた市民文化事業団
(八幡市文化センター)
後援:八幡市文化協会
協力:新潮社





朝井 まかて

大阪府生まれ。2008年小説現代長編新人賞奨励賞を受賞して作家デビュー。2013年に発表した『恋歌』で本屋が選ぶ時代小説大賞、2014年に第150回直木賞を受賞。『阿蘭陀西鶴』で織田作之助賞、『すかたん』が大阪ほんま本大賞、葛飾北斎の娘・応為を主人公にした『眩』が中山義秀文学賞を受賞するなど、受賞作多数。ほかに、森鷗外の子・類の生涯を描いた『類』（第34回柴田錬三郎賞受賞）、2023年NHK朝の連続テレビ小説の主人公・牧野富太郎を取り上げた『ボタニカ』など。

澤田 瞳子

京都府生まれ。2010年に『孤鷹の天』でデビューし、中山義秀文学賞受賞。『満つる月の如し 仏師・定朝』で新田次郎文学賞、奇想の画家として知られる伊藤若冲を描いた『若冲』で親鸞賞、『駆け入りの寺』で第14回舟橋聖一文学賞を受賞する。2021年、幕末から明治にかけて活躍した絵師・河鍋曉斎の娘を主人公とした『星落ちて、なお』で、第165回直木賞受賞。ほかに、奈良時代の天然痘パンデミックを描いた『火定』、能楽の演目を題材とした『能楽ものがたり 稚児桜』など。

ナビゲーター

並木 晴香(武庫川女子大学附属総合ミュージアム・
元 八幡市立松花堂庭園・美術館 学芸員)

画像

おもて:

上 河鍋曉斎 筆「蒔絵筆筥下絵 龍之図」部分

下 河鍋曉斎 筆「蒔絵筆筥下絵 虎之図」部分

(いずれも 京都工芸繊維大学美術工芸資料館 蔵/AN3640)

う ら:「東山遊楽図屏風」部分

(八幡市立松花堂庭園・美術館 蔵)

お問い合わせ
八幡市文化センター

〒614-8037 京都府八幡市八幡高畑5-3
Tel:075-971-2111



HP



Googleマップ